

普及活動情勢報告（令和3年2月分）

須崎農業振興センター農業改良普及課

新型コロナウイルスに負けない活動を目指して！ ～宮谷営農組合瑞穂ファーム総会～



総会の様子

1月24日、宮谷営農組合瑞穂ファームの第6回総会が開催され、組合員など合計14名が出席しました。

総会では、令和2年事業実績・収支決算及び令和3年事業計画・予算案、補助事業を活用した乾燥機の導入に向けた進捗状況などの議案が協議され、賛成多数で承認されました。

当課としては、津野町の農地を守る一役を担う組織と位置づけています。新型コロナウイルスに負けない活動を目指して、今後も宮谷営農組合瑞穂ファームの活動がさらにステップアップできるよう支援していきます。

集落営農を考えるキッカケに！ ～津野町「人・農地プラン」地区座談会～



地区座談会の様子

津野町の「人・農地プラン」の実質化に向けた地区座談会が1月19日を皮切りに、1～2月にかけて7地区で行われています。

地区座談会では、町担当者から、「人・農地プラン」の実質化に向けた取組を説明し、各集落で年齢層別に色分けされた農地地図を見ながら、おおむね10年後の担い手像について、話し合われました。当課からは、今後考えられる担い手の1つとして「集落営農」について情報提供を行いました。

今後、当課は、「人・農地プラン」の話し合いの機会などをキッカケにして、集落営農の推進を図っていきます。

炭酸ガスで品質アップだ！ ～ユリ炭酸ガス新規導入農家の支援～



局処施用に取り組む

令和3園芸年度から中土佐町上ノ加江地区のユリ生産者1戸で、管内の花き生産者では初となる炭酸ガス発生機を導入し、11月末から施用を開始しました。

農業技術センターの試験結果では、オリエンタル系ユリに炭酸ガス施用することで品質が向上することが分かっており、生産者も期待しています。しかし、施用方法等についてのノウハウがなかったことから、当課は先進地である高知市長浜への視察を企画し、コーディネートを行いました。

施用開始から2ヶ月ほど経ち、生産者からは「施用前よりボリューム感が出てきた」「切り下球の肥大にも期待している」といった反応があり効果を実感しています。

今後も生産者や関係機関と施用濃度や肥培管理について意見交換しながらユリの品質向上に繋がるよう支援していきます。

農福連携を進めていくために ～須崎市障害者自立支援協議会就労支援部会～



提供した農作業紹介資料

2月2日、須崎市総合保健福祉センターで須崎市障害者自立支援協議会就労支援部会が開催され、福祉関係機関や市役所関係部署、農業振興センターなど関係者14名が出席し、今年度の取り組みの確認や次年度の取り組みについて検討しました。

当課からは、福祉支援者や障害者等に農作業をイメージしてもらえるよう、農福連携に関心の高い農家での作業紹介資料を作成し提供しました。福祉支援機関からは、「農業に興味を示す相談者は少ないが、活用できる場面で利用したい」との声がありました。

当課では、福祉関係機関と連携しながら、相互理解や農業者への農福連携の啓発を行っていきます。

百姓から百笑へ みんなで一歩ずつ、一歩ずつ ～ささば営農組合総会～



総会の様子

2月12日、中土佐町笹場集会所で、ささば営農組合の総会が開催され、11人の出席がありました。当組合は、あぜ塗りや乾燥、粃摺りの農作業受託、もち米・酒米の栽培を行っています。

総会では、近年、米の食味向上を目指して、栽培試験や地域内の玄米サンプルの食味調査を実施してきた取組や、中土佐町ふるさと納税の返礼品として、組合員のお米を提供することが決まった事などが報告されました。また、当課からの提案で、今後、組合では、収量と食味のバランスが取れた施肥量を考えていく事になりました。

当課では、関係機関と連携しながら、食味向上などの取り組みに対して引き続き支援を行っていきます。

「地域のこと、集落のこと」みんなで考えていきましょう ～集落営農って何？～



J A、市町の広報誌掲載記事

コロナ禍の中、集落営農の啓発のための集合研修等が実施しにくいと、2 J A 4 市町に対し集落営農の啓発を目的とした記事を各広報誌に掲載できないか働きかけを行った結果、2月号に一斉に掲載されました。

当課は、関係機関とともにいろいろな場面で、担い手、農地、集落についての話を進めております。「中山間地域等直接支払交付金」協定集落や「人・農地プラン」座談会、集落からの相談などで、「今の農機が壊れたら、田んぼはよう作らん！」等の話を聞いた時は、集落営農について説明をしています。

当課では、農業関係機関と連携しながら、その集落に応じた集落営農の形を農業者のみなさんと話し合えればと考えています。